

令和2年度 事業報告書

自：令和2年4月1日 至：令和3年3月31日



社会福祉
法人

美幌町社会福祉協議会

令和2年度事業報告(総括)

■総括

令和2年度の美幌町社会福祉協議会は、『みんなでささえあい～ふれあいのまちづくり～』をスローガンとして掲げ、社会福祉協議会に参加・参画いただける住民みなさまと地域福祉活動を展開してまいりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の広がりにより、人と人とが互いに距離を取り、接触する機会を減らすことが求められ、ボランティア活動や地区たすけあいチーム、地域住民等による福祉活動、当社協に事務局を置く各種福祉団体・実行委員会が実施するイベントの中止・延期等といった活動自粛を余儀なくされました。

このような状況でしたが、コロナ禍における若干の変更を加えながら、重点事業として掲げた事業を推進いたしました。

令和2年度重点事業に対し、実施評価は次のとおりです。

1. 社協だからこそできる、実践しなければならぬ事業の創造・構築

▶執行機関（理事会）主導による事業運営

【実施評価】執行機関である理事会や各委員会での協議と意思決定の機会を今まで以上に拡大し、実施事業の充実と新たな事業へ対応できる組織運営を図りました。

▶職員の更なる資質向上のため対内・対外研修の強化

【実施評価】対外研修はコロナ禍により計画していた研修会が中止・延期となりました。一方、対内研修は12

回の職員会議において、研修の手法により、相互に学びと研さんに努めました。

▶既存事業の検証・評価・再編・充実
【実施評価】各委員会にて担当する事業の検証・評価を実施しました。しかし、各事業の基盤整備に重点を置くあまり、再編・充実への着手には至りませんでした。

2. 住民力を更に高めるためのボランティアセンターの活性化

▶ボランティア実践者による新たなボランティアづくりのプログラムの構築・実施

【実施評価】びほろ・ちいき活性化事業『ささえ手くらぶ』を構築し、1月より実施いたしました。

▶災害ボランティアセンター立ち上げ機能訓練の実施

【実施評価】雪害想定で2月実施を計画して事業構築をしましたが、コロナ禍により延期としました。事業スキームができたので、次年度いつでも実施できる状況です。

3. (社協に事務局を置く) 各種団体・実行委員会の主体的な活動への移行

▶各種団体・実行委員会が本来持っている力を発揮できるような後方支援

【実施評価】コロナ禍においての各種福祉団体・実行委員会が実施する事業、イベントの中止・延期等を各団体が主体となり判断し、事務局は後方支援、あるいは側面的支援に心がけました。これにより、各団体等が本来持っている力をあらためて認識する契機となりました。

以下、会議体、委員会ごとにスローガンによる事業の報告をします。

三役会議（兼総務委員会）

■正副会長3名

森 暉夫会長
菅野隆秋副会長、染谷 良副会長

▶三役会議14回開催

■担当事業

① 法人運営

■総括

法人組織としての適切な運営を中心的に担い、理事会・評議員会をはじめ各委員会や各事業の実行委員会と連携した事業の運営と、民間組織としての社会福祉協議会の特性を活かした柔軟性や即応性のある事業運営を図りました。

各事業報告

① 評議員会

役員（理事・監事）の選任・解任、定款の変更など法人運営に係る重要事項の議決機関。

▶評議員30名

【福祉団体選出】杉原重美（共同募金委員会）、遠藤智恵子（ボランティア連絡協議会）、野昭憲（保護司会）、三浦厚志（修養団）、牧野泰乗（手をつなぐ連絡協議会）、齋藤義浩（美幌えくぼ福祉会）、益田徹也（緑の苑）

【民生委員選出】亀井哲夫、牧野道雄、早田眞二、矢葺恵子、橋本美典、岡田宏将

【自治会（会長）選出】采女博安、龍瀧誠一、三坂弘司★、亀山博貴★、渡部章★、炭野恵司★

【自治会（福祉部会）選出】佐野栄★、小南徹★、川内利勝、弥三谷和貴、山田信行★、阿部光宏

★=R03.06.26 就任

【学識経験者】白石さよ、井上裕子、茂手木敏夫、平居宏聖、三宅直哉

▶3回開催

※ 令和元年度事業・決算承認、欠員理事の補充選任、美幌町地域防災計画への参画、事務局の移転、定款変更、補正予算承認、新年度事業・予算など

② 理事会

法人の業務執行の決定機関。

▶理事15名

森暉夫（会長）、菅野隆秋（副会長）、染谷良（副会長）、石川亘（地域ふくし推進委員会、社協だより編集委員会担当）、岩田昇（地域ふくし推進委員会、たすけあいチーム活動推進協議会担当※R03.03.31 辞任）、

池野本満（在宅ふくし推進委員会担当）、藤野木昭和（在宅ふくし推進委員会担当）、藤井幸夫（地域ふくし推進委員会、社協だより編集委員会担当）、吉田孝（在宅ふくし推進委員会担当）、影山健三（在宅ふくし推進委員会、たすけあいチーム活動推進協議会担当※R02.07.08 就任）、

影山順一（地域ふくし推進委員会担当）、高橋敬子（地域ふくし推進委員会、社協だより編集委員会担当）、

松倉勇（在宅ふくし推進委員会、社協だより編集委員会担当）、宮上憲之（在宅ふくし推進委員会担当）、

那須清二（社協だより編集委員会担当※R03.03.31 辞任）

▶4回開催

※ 令和元年度事業・決算認定、美幌町地域防災計画への参画、事務局の移転、定款変更、補正予算編成、事務局長の選任、新年度事業・予算など

③ 内部監査

理事の職務執行、計算書類の監査

▶ 監事 2 名

平田美木男監事、松本光男監事

▶ 4 回実施

※ 理事の職務執行、計算関係書類を監査

④ 外部監査

法人のガバナンスの強化や、事業運営の透明性の向上。

▶ 監査人：税理士法人タックス総合経営研究所

▶ 1 回実施

※ 定期的な計算書類の監査も実施。

⑤ 評議員選任・解任委員会

評議員の選任及び解任を審議、決定。

▶ 委員：3 名

沖田滋委員、松本光男委員、事務局

▶ 1 回開催

自治会・福祉部会選出評議員の母体の役員改選に伴う選任

⑥ 役員が委嘱されている会議等

※ コロナ禍につきほとんどが書面開催あるいは開催中止

⑦ 事務局職員が委嘱されている会議等

※ 美幌町生活支援・介護予防体制整備推進協議体、空き家等対策協議会など 13 の会議（一部書面開催）に出席しました。

⑧ 事務局職員の会議等

※ 12 回開催。各種事業の実施状況及び課題の共有、会議をとおした研修方式で学び、研さんを深めました。

⑨ 町との協議事案

i. 災害ボランティアセンター立ち上げ・設置・運営等に関する協議

▶ 3 回協議

▶ 町：防災危機管理主幹外 2 名

社協：事務局職員 2 名

※ 災害ボランティアセンターを担う当社協が、美幌町地域防災計画へ参画することに繋がりました。

ii. 美幌町介護支援ボランティアポイント事業に関する協議

▶ 4 回協議・関係団体への説明

▶ 町：民生部長、福祉主幹、担当主査

社協：正副会長、事務局職員 1 名

※ 1 月から実施した社協・ボランティアセンターのポイント型新規事業「びほろ・ちいき活性化事業『ささえ手くらぶ』」を、町が新年度に補助金により支援する形となりました。

⑩ 社協に事務局を置いた団体等

▶ 美幌町共同募金委員会

▶ 美幌町老人クラブ連合会

▶ 美幌町身体障害者福祉協会

▶ 美幌町遺族会

▶ 日本赤十字社美幌町分区

▶ ふれあい広場びほろ実行委員会

▶ カレンダーリサイクル市実行委員会

⑪ 事故報告

2 件の事故があり、それぞれ終結。

i. 配食サービス運営事業

▶ 事故の概要：

配食の誤配により数日間利用者の安否確認ができていなかった事故。

※ 利用者の命に別条はありませんでした。

ii. 法人車両物損事故（被害）

▶ 事故の概要：

駐車場に駐停車していた法人車両が、隣に駐車しようとした車両に衝突された。

※ 示談解決しました。

⑫ 苦情受付・処理

1 件の苦情申し立てがありました。

▶ 苦情の概要：

事務局の女性職員の接遇（高圧的な態度）に対する苦情。

経路は、申立者よりケアマネジャーをとおして申し立て。

※ 謝罪し、職員教育を確りして福祉の向上に努められたいとの言葉があり終結。（第三者委員会への申し立て、報告希望はなし）

⑬ 後援等の名義使用承認

▶ R02. 11. 09-11 『第 3 1 回全道シルバー作品展美幌町出品者 4 人展』（主催：生きがづくりクリエイター・北海道シニアリーダー 平田美木男）

地域ふくし推進委員会

■委員 5 名

委員長 石川 亘理事
副委員長 岩田 昇理事 (3/31 辞任)
委員 藤井幸夫理事
影山順一理事
高橋敬子理事

■委員会担当事業

- ① 応急援護資金貸付
- ② 法人後見
- ③ 心配ごと相談所
- ④ 日常生活自立支援
- ⑤ 成年後見支援センター
- ⑥ 生活福祉資金貸付
- ⑦ よりあいデイサービス
- ⑧ 地域福祉に関すること

■委員会総括

令和 2 年度当社協の重点事業計画の一つ『執行機関（理事会）主導による事業運営』推進のため、地域ふくし推進委員

会を 1 9 回開催しました。

このうち 1 3 回、応急援護資金貸付審査を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで福祉の対象にはならなかった方々へのつなぎ資金による支援。認知症などにより、判断能力に欠ける方々の日常生活における金銭管理などの支援、あるいは法人として成年後見人となり、死後までを見据えた支援。コロナ禍においてもつながりを絶やさない活動を進め、住民を支えるサービスに努めました。

なお、地域ふくし推進委員会の担当事業が多岐にわたることから、②法人後見、④日常生活自立支援、⑤成年後見支援センターの権利擁護関係事業については、令和 3 年度新設される「ふくし権利擁護委員会」に移管されます。

各担当事業報告

① 応急援護資金貸付

他より借受が困難な低所得者・生活に困窮する者に対する、資金貸付（無利子）。

▶ 相談件数 2 1 件 / 貸付件数 1 8 件

▶ 貸付実行額 4 2 1, 6 5 1 円

※ 「応急援護資金貸付規程」及び「償還免除等に関する規程」を見直し、令和 2 年 7 月 1 日より施行。生活保護受給者を対象外としました。

② 法人後見

認知症高齢者等判断能力が不十分な住民の成年後見人等を法人として受任。

▶ 後見類型 3 名、保佐類型 3 名

▶ 後見等支援員（市民後見人）5 名が、ケース担当し、支援。（※うち 1 名 2 ケース担当）

※ いわゆる“おひとりさま”の死後事務について、仏教会、葬儀社、国

保HPの協力により、葬送体制を整備できました。

③ 心配ごと相談所

3種の相談所を開設。

i. 心配ごと相談

心配ごと相談員：10名

相談件数：1件（住宅問題）

ii. 無料法律相談

弁護士：1名

相談開設日数：6日

相談件数：24件

（財産・相続10件ほか）

iii. 福祉よろず相談

社協事務局職員

相談件数：1件（人間関係）

④ 日常生活自立支援

北海道社会福祉協議会から委託を受けて、認知症高齢者等で判断能力が十分でない方への、福祉サービスの利用援助や生活費の管理などをサポート。

▶利用者6名

認知症高齢者3名

知的障がい者1名

精神障がい者2名

▶生活支援員6名と社協事務局職員が協働でケース担当し、支援。

▶支援稼働：178回

▶生活支援員登録者：11名

（うち1名社協事務局職員）

⑤ 成年後見支援センター

美幌町より委託を受けて、成年後見制度の相談や利用のお手伝い、住民講座などにより普及・啓発を図った。また、市民後見人の養成、フォローアップ。

▶相談受付実績：15件

▶住民向け講座：

R03.03.25 オンライン開催

『自分らしい最期に備えて～遺言と

成年後見にできること～』

講師：梶田美穂氏（司法書士）外1名

受講者：28名受講（受講人数制限）

▶市民後見人登録者：32名

▶市民後見人フォローアップ講座：

R02.11.13 一部オンライン開催

『何をしたら後見人としての役割を果たしているのか』

講師：合田央志氏（日本医療大学教員）

活動報告：法人後見支援員4名

⑥ 生活福祉資金貸付

北海道社会福祉協議会より事務委託を受け、他の制度が利用できない低所得者、障がい世帯または高齢者世帯への資金貸付と相談支援。

▶生活福祉資金（本則）：

新規0件（相談件数0件）

貸付実行中7件

i. 総合支援資金2件

ii. 福祉資金1件

iii. 教育支援資金4件

▶生活福祉資金（コロナ特例貸付）：

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活が困難になった世帯へ貸付。

i. 緊急小口資金（上限20万円）

相談件数：78件

貸付件数：69件

貸付金額：12,300,000円

ii. 総合支援資金（上限60万円）

※条件により延長、再貸付有り

相談件数：65件

貸付件数：66件

貸付金額：33,832,000円

⑦ よりあいデイサービス

地域のつながりや、支えあいを推進する社協が指定したサロンを、助成金

により支援。

- ▶ 指定サロン：6 団体
 - i. 絆一びほろ ひだまり部会
 - ii. げんきサロン夢工房
 - iii. 東栄たすけあいチーム
 - iv. 美園ほのぼの会
 - v. びほろ じ〜・ば〜サークル輝
 - vi. 元町ふれあいサロン
- ▶ 利用総数：672名
(前年度1,711名)
- ▶ 助成金総額：365,200円

⑧ 地域福祉に関すること

生活困窮者支援としてフードバンクについて討議などをしました。

在宅ふくし推進委員会

■ 令和2年度委員6名

- 委員長 池野本満理事
- 副委員長 藤野木昭和理事
- 委員 吉田孝理事、影山健三理事
松倉勇理事、宮上憲之理事

■ 委員会担当事業

- ① 配食サービス
- ② 移送サービス
- ③ いきがいデイサービス
- ④ 福祉用具及びレクリエーション
用具貸出
- ⑤ 在宅福祉に関すること

■ 委員会総括

令和2年度当社協の重点事業計画の一つ『執行機関（理事会）主導による事業運営』推進のため、在宅ふくし推進委員会を4回開催しました。

在宅福祉サービスを必要とされる高齢者等に、社協だからこそできる個別的な支援に努めました。

各担当事業報告

① 配食サービス

高齢者等への自宅へ週3回夕食としてお弁当を配食し、安否確認、在宅生活を支援。（町委託事業）

- ▶ 配食実績：利用者706名
配食数7,215食
提供回数155回

※ 配食ボランティア56名、運転ボランティア16名の協力によりサービス提供。12月31日には、高校生ボランティア3名、運転ボランティア3名の協力により「おせち料理」を29名にお届けしました。

※ 利用料領収事務を見直し、銀行口座自動振替を10月より開始しました。

② 移送サービス

車いす利用者などで交通機関の利用や家族の送迎が難しい方を医療機関へ福祉車両により送迎支援。（町委託事業）

- ▶ 利用実績：提供回数118回
実利用者20名

※ 運転ボランティア5名の協力によりサービス提供。サービス向上のため、運転ボランティアミーティング（6回）、アンケートを実施しました。

③ いきがいデイサービス

高齢者の要介護の予防を目的として通いの場を開設。（町委託事業）

- ▶ 【新町】実績：265日開所
コミセン和室で、囲碁や麻雀を提供。
延2,465名（1日平均9.3名）利用
- ▶ 【青山】実績：275日開所
老人憩の家で、花札や百人一首、オセロ、週2回入浴提供。
延4,073名（1日平均14.8名）利用

④ 福祉用具及びレクリエーション用具貸出

福祉用具は、施設からの外泊などで一時的に使用したい方へ、レクリエーション用具はサロン活動等に貸出。

▶貸出実績

福祉用具：車いす、歩行器ほか9点
計113件貸出

レク用具：輪投げほか13点
計49件貸出

※「福祉用具及びレクリエーション用具貸出要綱」として全面見直しました。

⑤ 在宅福祉に関すること

災害見舞金交付要綱を見直し、対象・見舞金額の基準を規定しました。

社協だより編集委員会

■令和2年度委員5名

委員長 藤井幸夫理事
副委員長 高橋敬子理事
委員 石川亘理事、松倉勇理事
那須清二理事（3/31 辞任）

■委員会担当事業

① 社協だより編集発行

■委員会総括

令和2年度当社協の重点事業計画の一つ『執行機関（理事会）主導による事業運営』推進のため、委員会を13回開催しました。

身近にある福祉活動や、住民が利用できる福祉サービスなど、さまざまな福祉情報の発信を、文字を大きく親しみやすい紙面にすることで努めました。

担当事業報告

① 社協だより編集発行

▶発行部数：8,650部

▶発行回数：5回 ※前年度より1回増
No.201（令和2年4月1日発行）
No.202（令和2年7月1日発行）
No.203（令和2年8月1日発行）
No.204（令和2年10月1日発行）
No.205（令和3年1月1日発行）

地区たすけあいチーム 活動推進協議会役員会

■運営委員会

▶任期

平成31年4月1日～令和3年3月31日

▶役員8名 ※社協理事2名派遣

龍瀧誠一会長（南1丁目）、藤井幸夫
副会長（東栄）、中川能典副会長（日
の出）、松浦英雄委員（幸）、二俣正孝
（野崎団地）、西原みどり書記（南3西）、
派遣理事：岩田昇理事、影山健三理事

■担当事業

① 小地域ネットワーク活動推進事業
（地区たすけあいチーム活動推進事業）

■総括

地区たすけあいチーム普遍のスローガン“あたたかい心と心のまちづくり”、各地区の主体的で特性を生かした活動推進のため、3回役員会が開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛中でも、つながりを途切れさせない活動を支援するため、社協よりコロナ特例助成金が交付されました。

担当事業報告

① 登録チーム数

▶36チーム（うち、3チーム休止中）

② 総会・研修会

▶総会（書面開催）・研修会は中止。

※ 新型コロナウイルス感染予防・拡大防止ため総会は書面開催にて表決、研修会は中止となりました。

例年、6月下旬に総会が開催され、総会后、各チームの活動実践発表などの研修が行われております。

③ 地区たすけあいチーム活動推進協議会・自治会連合会福祉部会合同研修会

▶中止

※ 新型コロナウイルス感染動向の予見が困難なため中止となりました。

合同研修会は、両会から100名以上が集い、毎年実践報告や課題の共有などを図りながら交流しています。

④ 社協からの活動助成費

▶活動助成費：1,577,046円
(※うち、赤い羽根共同募金配分金650,000円、コロナ特例助成金330,000円)

ボランティアセンター運営委員会

■運営委員会

▶任期

令和2年4月1日～令和4年3月31日

▶運営委員10名、協力員1団体

太田博美運営委員長(民生委員)

宮田博行副委員長(NPO法人元気プロジェクト理事長)、茂木要委員

(グループホーム連絡会長)、空師美

和子委員(赤十字奉仕団委員長)、坂

田美栄子委員(ボランティア連絡協議会長)、平澤一樹委員(美幌高校教諭※R03.03.31退任)、野崎誠委員(北

中学校教諭※R03.03.31退任)、久山

武徳委員(ローターアクトクラブO

B)、松浦英雄委員(かたづけや本舗元代表)、浦野紘史委員(美幌JC歴

代理事長)、協力員：美幌町青年活動団体B-l i v e

■運営委員会担当事業

① ボランティアセンター運営事業

地域住民のボランティア活動の拠点として、町民へのボランティア活動に対する理解と関心を深め、ボランティア活動者の育成、援助、ボランティア活動をとおした地域福祉の増進を図る。

■運営委員会総括

『ボランティアは“Pass me the salt (パスマー・ザ・ソルト)”』を提唱し、事業推進しました。パスマー・ザ・ソルト=食卓で「お塩取って」と言われたら、近くの人が塩の瓶を手渡すように“できる人ができることをする”。わがまちのために“できる人ができることをする(してみたい)”の契機を提供するため、運営委員会を10回開催し、2つの重点事業の構築、センター事業の推進を図りました。

■各事業報告

■重点事業

① 『ささえ手くらぶ』の実施：

▶地域のささえ手を増やしていく事業「びほろ・ちいき活性化事業『ささえ手くらぶ』(第1期：1月～3月)」を実施しました。

▶事業概要：社協・ボランティアセンターが認定した活動に参加し、“ささえた数(ボランティア活動)”に対してハズレなしのくじ引きができるポイント付与がされる仕組み。趣旨目的は、地域をささえるボランティア活動ですが、活動が目に見えるポイント制により、楽しみながら、モチベーションを高めながら活動ができる契

機となりました。

▶登録者数

- i. 登録者数：91名
(大人81名、学生・児童10名)
- ii. 平均年齢：62.1歳
- iii. 性別：男性24名、女性67名
- iv. 登録者のうちボランティアセンターに新規の登録者数：43名
- v. 活動に結び付いた方：延べ11名
 - ・配食サービス：8名
 - ・移送サービス：1名
 - ・生活たすけあいサービスさくらんぼ：2名

▶入門講座『GoToささえ手くらぶ』
3回開催（延べ74名参加）

▶『ささえ手くらぶ事業説明』
北4丁目自治会役員会ほか計2回

▶事業協賛
JAびほろ、美幌観光物産協会

▶景品（50ポイントでくじ引き1回）
彩るアスパラソース、肉みそ、米、
ゴミ袋、アルコール類など

②『災害ボランティアセンター立ち上げ機能訓練2020』の実施：

▶延期（※新型コロナウイルス感染動向の予見が困難なため）

▶事業概要：延期としましたが、継続事業として、災害ボランティアセンターの運営と災害ボランティア活動の訓練をとおして、地域住民の意識醸成を図り、住民力をあげる契機として次のとおり計画・準備しました。

- i. 訓練日程：
2月20日（土）・21日（日）
 - ii. 想定災害：雪害
 - iii. 災害ボランティアセンター訓練本部：
旧西保育所
 - iv. 派遣先：グループホーム、個人宅
- ▶協賛：美幌建設業協会

■ボランティアセンター事業（機能）

▶ボランティア登録

団体登録：31団体 2,876名
個人登録：124名

※ 団体活動は、コロナ禍で活動が制限される中、様々な工夫を凝らして活動し、町民の福祉や教育、生活の向上を支えていただきました。
個人ボランティアは、「ささえ手くらぶ」の実施により、前年度登録21名を大幅に上回る124名が登録され、配食サービス等の活動により、町民の生活を支えていただきました。

▶ボランティアコーディネート
延273回（1,063名）

▶デリバリー講座
学校等計7回実施（延べ336名）

▶災害ボランティアセンターフォーラム
中止（※新型コロナウイルス感染動向の予見が困難なため）